

SPECIAL PRESENT

曲名「もしも彼女が問うたなら」 Se Eia Perguntar

演奏者 佐藤茂勝 先生

ブラジルのギターリストのディレルマンド・レイスが作曲したものであり、男性ボーカルでも歌われている。

伝統的なブラジル・ギターのスタイルで作曲されていて、ゆっくりとしたワルツで哀愁を帯びたメロディーは一度聴いたら忘れられない一曲である。

D.レイスは、40～70年代にブラジルで活躍し、今日のショーロやサンバを形作るうえで重要な役割を果たしている。

邦題を「もしも彼女が尋ねたら」としているものもある。



本日は、素敵な演奏とご協力を有難うございました。

どうぞ、よいお歳をお迎えください。

第4回 ゆかいな仲間の

楽しい音楽会

2019. 12. 20 (金)

スタジオ・エンザ



** Program **

1. 演奏者 草間文喜

曲名 「メヌエット」 作曲者 J.S. バッハ

この曲は、クリスティアン・ペツォールトが作曲した鍵盤楽器のための小品であるが、バッハが2度目の妻アンナに贈った「アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帳」に作曲者名を伏して収めたため「バッハのメヌエット」として広く知られるようになった。

「ラバーズ・コンチェルト」のタイトルでも知られている。

「恐れ多くも偉大な作曲家の美しい曲、楽しみたいです。」とは本人コメント。

2. 演奏者 横山晶子

曲名 「神田川」 作曲者 南こうせつ

1970年代前半に隆盛を極めたフォークソング、その代表格に挙げられるグループ「かぐや姫」の代表曲で、1973年に発売された。私が初めてこの曲を聴いたのは、虫垂炎で入院した時。

ラジオの深夜放送でイヤホン越しに流れてきた、この湿気を帯びたメロディーは、今でも色褪せることなく、あの傷口の痛みのBGMとなっています。(全文本人コメント)

3. 演奏者 梅津きよ子

曲名 「小さなロマンス」 作曲者 ルイゼ・ワルカー

第2回発表会に続いての2度目の挑戦です。

ウィーン王立音楽大学の主任教授ワルカーの曲は、教育的意図が多分に盛り込まれていて練習曲としても優れている。この曲もギターの基本技術で構成されているが女性らしい美しいもの。何回挑戦しても良い曲なのではないでしょうか。

4. 演奏者 幸田吉史

曲名 「セレナーゼ」 作曲者 F. シューベルト

シューベルトの歌曲の中で最も有名なものの一つ。歌曲集「白鳥の歌」の第4番に当たり、恋人に対する切々とした思いを歌い上げている。セレナーゼとは、恋人の家の窓下で演奏する音楽を意味していてロマンチックで聴き手を魅了する。

5. 演奏者 丸山 登

曲名 「悲しい酒」 作曲者 古賀政男

古賀政男作曲による美空ひばりの代表曲の一つ。

元もとは、1960年に北見沢惇のために書かれた曲であったがヒットしなかった。1966年、美空ひばりにはカバー曲であることを伏せたままレコーディングをしている。

6. 演奏者 山本周治

曲名 「プレリュード」 作曲者 J.S. バッハ

チェリストにとっては「チェロの聖書」と呼ばれるチェロのために書かれた曲「無伴奏チェロ組曲」の「第1番」の前奏曲（プレリュード）である。アラベスク的な分散和音が反復しながら移り変わっていく。様々な楽器での演奏に編曲されている。

7. 演奏者 福崎 實

曲名 「さくら変奏曲」 日本古謡

日本古謡の「さくら」を主題にして、箏曲の宮城道雄が作曲しているが、それを元に沢山の演奏者が編曲し演奏している。

今回の演奏は、中林淳眞が編曲したものである。中林淳眞は演奏をイエペスに、作曲をホアキン・ロドリゴ、モレノ・トロバに師事し、世界中を回って活躍しているギタリストである。